

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(△05)

目的 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成果 1. 韓国との交流事業では、2011(平成23)年度に韓国国立無形遺産院(当時の韓国側の組織名は韓国国立文化財研究所)と調印した「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流合意書」に基づき、2016(平成28)年8月30日に国立無形遺産院(全州市)において開催された「韓日無形遺産研究交流成果発表会」に6名の研究員が参加し、2名の研究員が研究発表を行くった。また同年10月31日に、本研究交流の第3フェーズとなる「無形文化遺産の保護及び伝承に関する日韓研究交流合意書」を締結した。さらに第2フェーズ(2012~2016)の成果報告書として『日韓無形文化遺産研究II』を2017(平成29)年3月に刊行した。



韓国国立無形遺産院との共同研究

2. 無形文化遺産分野の国際的情報収集では、当初は2016(平成28)年11月28日~12月2日にエチオピア・アディスアベバで開催された「ユネスコ無形文化遺産保護条約第11回政府間委員会」に2名の研究員が参加予定であったが、現地の治安状況の悪化により渡航を中止し、ウェブキャストにより会議を傍聴した。

論文・二神葉子：「無形文化遺産の保護に関する第11回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』第11号 pp.1-16 17.3

発表・菊池理予：「無形文化遺産の保護及び伝承に関する日韓研究交流(2012~2016年)」韓日無形遺産研究交流成果発表会 国立無形遺産院 16.8.30

・久保田裕道：「今後の研究交流の方法について」韓日無形遺産研究交流成果発表会 国立無形遺産院 16.8.30

刊行物・『日韓無形文化遺産研究II』東京文化財研究所・国立無形遺産院 17.3

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、石村智、前原恵美、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、松山直子(客員研究員)

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

目 的 東南アジア、西アジアやその周辺地域における文化遺産保存修復事業等への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化遺産の保存・修復及び管理・活用に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

- 成 果**
1. 研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」の開催（2017（平成29）年2月13日）。ミャンマー・タイ・カンボジア・ベトナムより考古学専門家各1名を招聘（2017（平成29）年2月12日～16日）
 2. カンボジア・タネイ遺跡保存管理整備計画策定支援等
 - ア) アプサラ機構職員を対象に「タネイ遺跡保存管理整備計画策定ワークショップ」を開催（2017（平成29）年1月26日～28日）
 - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合及び総会への出席（2017（平成29）年1月24・25日）
 3. ミャンマー・バガン遺跡群の煉瓦造建造物保存協力
 - ア) バガン現地での準備調査及びマンダレーでの国際専門家会合出席（2016（平成28）年7月23～29日）
 - イ) 8月24日の地震発生を受けた緊急被災状況調査の実施（2016（平成28）年9月24日～30日）
 4. アルメニア及びイランにおける協力可能性調査及び関係機関協議の実施（2016（平成28）年9月26日～10月6日）
 5. イラン文化遺産手工芸観光庁次官及び同文化遺産観光研究所所長を招聘し、協力協定を締結。あわせて研究会「イラン文化遺産セミナー」を開催（2017（平成29）年3月29日）
 6. ネパールの地震被災文化遺産保護に関する技術支援（外部資金事業との連携）
 - ア) 同国文化観光民間航空省考古局との協力協定締結ほか準備作業（2016（平成28）年4月22日～26日）
 - イ) 関係機関協議及び歴史的集落保全会議への出席（2016（平成28）年11月26日～12月2日）
 - ウ) 同国の中央・地方行政担当者等8名を招聘し、歴史的集落保全に関する研修を実施（2017（平成29）年3月4日～12日）
 7. タイ文化省芸術局建造物課職員来日研修実施への協力（2016（平成28）年6月6日～8日）

発 表・Masahiko TOMODA：“Conservation of built heritage in Bagan” Expert Consultation Meeting on Strategic Action Planning for the Management of Bagan, Hotel Mandalay, Myanmar 16.7.28

刊行物・『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3

・“Safeguarding of Cultural Heritage in Myanmar” TNRICP, 17.3

・“Protection and Research on Cultural Heritage in the Chuy Valley, the Kyrgyz Republic” Institute of History and Cultural Heritage of the National Academy of Sciences of the Kyrgyz Republic / TNRICP, 17.3

研究組織 ○友田正彦、中山俊介、安倍雅史、山田大樹、久米正吾、佐藤桂、マルティネス・アレハンドロ、金善旭、北山奈央子（以上、文化遺産国際協力センター）、亀井伸雄（所長）、佐野千絵、二神葉子（以上、文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）、小峰幸夫（保存科学研究センター）、石井美恵、間舎裕生（以上、客員研究員）

保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

目 的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

- 成 果**
1. ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究
 - ア) 煉瓦造寺院の外壁調査と保存修復方法の研究 (2016(平成28)年7月18日～29日、2017(平成29)年2月5日～21日)
 - イ) 壁画の地震被害に関する緊急調査
2016(平成28)年8月24日に発生した地震により被害を受けた壁画の被災状況調査の実施 (2016(平成28)年9月24日～30日)
 - ウ) パガン王朝期における壁画技法と画像学に関する調査 (2017(平成29)年2月9日～14日)
 2. ミャンマーの伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップの開催 (2017(平成29)年2月6日～8日)
 3. トルコ共和国における壁画の保存管理体制構築に向けた人材育成事業
 - ア) 事業の趣旨説明を含む下記の現地カウンターパートとの合同セミナーの開催
ガーズィ大学芸術学部文化財保存修復学科 (2016(平成28)年10月31日)
トルコ共和国文化観光省文化遺産博物館総局 (2016(平成28)年11月1日)
トルコ共和国文化観光省ネヴシエヒル保存修復センター (2016(平成28)年11月3日)
 - イ) トルコ共和国における壁画の保全状態に関する視察調査 (2016(平成28)年11月3日～13日)
 - ウ) 博物館関係者および保存修復士への聞き取り調査 (2016(平成28)年11月3日～13日)

- 発 表**
- ・前川佳文：「バガン遺跡煉瓦造建造物外壁の保存修復について」ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局バガン支局 16.7.27
 - ・増淵麻里耶：「東京文化財研究所のユーラシア東部における過去の壁画事業とカッパドキアでの事業の構想について」ガーズィ大学／東京文化財研究所合同セミナー 16.10.31
 - ・前川佳文：「トルコでの壁画保存事業計画について」ガーズィ大学／東京文化財研究所合同セミナー 16.10.31

- 刊行物**
- ・『ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3
 - ・『トルコ共和国における壁画技法と保存管理体制に関する報告 平成28年度成果報告書』東京文化財研究所 17.3

研究組織 ○中山俊介、前川佳文、増淵麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、嶋原由美(保存科学研究センター)

在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

目的 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財及び漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、研修、共同研究等を通して日本の文化財修復に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

- 成果**
1. 絵画作品の修復を行った。(修復中作品5点)
 - ア) クラクフ国立博物館(ポーランド)所蔵作品3点(宮川長春「遊女と禿図」1幅、中林竹洞「瀑布溪流図」1幅、狩野中信「月下秋景図」1幅)
 - イ) ナショナルギャラリーオブビクトリア(オーストラリア)所蔵作品2点(「親鸞聖人絵伝」4幅、佐々木泉玄「般若図」1幅)



「遊女と禿図」絵具調査



「瀑布溪流図」クリーニングの検討会

2. 海外において調査を行った。(2件)
 - ア) ライプツィヒ民族学博物館(ドイツ) 絵画調査、2017(平成29)年2月27日～3月3日
 - イ) インディアナポリス美術館(アメリカ) 絵画調査、2017(平成29)年3月21日～24日
3. その他、協力・共同等 (共同研究1件)

ドレスデン国立美術館陶器資料館所蔵の日本美術品の共同研究事業 (ドレスデン国立美術館陶磁器資料館(ドイツ)所蔵「染付蒔絵鳥籠装飾広口大瓶—The Bird cage vase」1合)

発表 ・山田祐子ほか：「画絹の生糸形状が発色に与える影響」 第38回文化財保存修復学会大会 東海大学湘南キャンパス 16.6.26

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、江村知子、元喜載、小田桃子、山之上理加、後藤里架、橋本広美 (以上、文化遺産国際協力センター)、藤井佑果 (保存科学研究センター)、林昌宏、鈴木絢香、小田切真梨 (以上、研究支援推進部)

国際研修(コ05)

目的 近年日本の材料や道具が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業では海外において研修を主催、並びに文化財保存修復研究国際センター (ICCROM)、メキシコ文化省国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復機関 (CNCPC-INAH) 等と研修を共催することで海外の修復関係者への技術移転を行う。

- 成果**
1. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops of the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」ベルリン国立博物館アジア美術館 (ベルリン、ドイツ)
 - ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」、2016 (平成28) 年7月6日～8日
参加者：15名 (イタリア、オーストリア、デンマーク、イギリス、ポーランド、ドイツ、スイス、フィンランド、オーストラリア)、その他オブザーバー2名
 - イ) 応用編「掛軸の修復」、2016 (平成28) 年7月11日～15日
参加者：9名 (スペイン、ドイツ、オーストリア、デンマーク、イギリス、イタリア、ドイツ、ポーランド)、その他オブザーバー2名
 2. ワークショップ「染織品の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Textile)」
 - ア) 協議及び研修の予行
国立台湾師範大学 (台北、台湾)、2016 (平成28) 年7月6日～8日、参加者：12名
 - イ) 染織品の保存と修復に関する研究会Ⅰ「染織品の保存と展示」
東京国立博物館、2016 (平成28) 年6月10日、参加者：21名
 - ウ) 染織品の保存と修復に関する研究会Ⅱ「染織品の展示と修復」
京都国立博物館、2017 (平成29) 年1月23日、参加者：18名
 3. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」
東京文化財研究所、京都市他、2016 (平成28) 年8月29日～9月16日
参加者：10名 (リトアニア、ポーランド、クロアチア、アイスランド、韓国、ニュージーランド、エジプト、スペイン、ベルギー、ブータン)
 4. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」CNCPC-INAH (メキシコシティ・メキシコ)、2016 (平成28) 年11月9日～25日
参加者：12名 (アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコ、パラグアイ、ペルー)
 5. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshops on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」ケルン市博物館東洋美術館 (ケルン、ドイツ)
 - ア) 応用編「漆工品の調査と保存・展示環境」、2016 (平成28) 年11月30日～12月3日
参加者：5名 (イタリア、オーストリア、オランダ、オーストラリア、ドイツ)
 - イ) 応用編「呂色上げと加飾技法」、2016 (平成28) 年12月6日～10日
参加者：4名 (ドイツ、アメリカ合衆国、ギリシャ、オーストリア)
 6. 招聘：国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」に係る技術移転及び研究
2016 (平成28) 年3月7日～6月29日、招聘人数：1名 (メキシコ)

刊行物・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」』東京文化財研究所 17.3ほか2件

研究組織 ○加藤雅人、小田桃子、元喜載、山之上理加、後藤里架 (以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子、嶋原由美、藤井佑果 (以上、保存科学研究センター)、菊池理予 (無形文化遺産部)、林昌宏、鈴木絢香、小田切真梨 (以上、研究支援推進部)、石井美恵、大河原典子、杉山恵助 (以上、客員研究員)